

月輪つきのわ

〔東福寺の東より泉涌寺に至る所をいふ。兼実公かねざねの山莊なり。月輪右大臣と号す、東福寺四至の文云、東は月輪殿の堀路通を限ると云々〕

月輪といふ所にまかりて、元輔惠慶などと共に、庭の藤の

花をもてあそびてよみ侍ける。

後 拾

藤の花盛となれば庭の面に思ひもかけぬ波ぞたちぬる

能

宣

同

さきの日に桂かつらの宿を見しゆへはけふ月輪にくべきなりける

輔

親

月輪殿御会に紅葉

玉 吟

露のぬきよはの山風この頃は立田のにしきこゝろしてふけ

家

隆

光明峯くわうみやうほう

〔東福寺方丈のひがし、即宗院の南谷をいふ〕光明峯寺址〔東福寺偃月橋の奥にあり。亡滅の後毘沙門堂あり、故に毘沙門谷ともいふ。本尊は今東福常楽庵じやうらくの閣上にあり。聖一しやういち国師年譜云、建長四年二月廿一日藤丞相道家公薨ず年六十才、四条院の外祖、光明峯寺に葬る〕

光明峯入道前摂政の墓所にてよみける

続 拾 遺

哀なり草のかげにもしら露のかゝるべしとはおもはざりけん

九条前摂政右大臣

地蔵堂 ちざうだう

〔三聖寺前町にあり。立像八尺許、張子の像なり、近年造立す。又腹内に坐像一尺許、定朝のつくりし地蔵尊を安置す〕

法性寺旧蹟 ほつしやうじのきうせき

〔拾芥抄に曰、九条河原にありとぞ。今按るに、九条里の東なり、畠の字に阿弥陀堂の名あり。当寺の本願は摂政太政大臣従一位忠平公なり、天曆三年八月八日薨ず、昭宣公の長男にして、諡号貞信公〕

法性寺観音 ほつしやうじくわんおん

〔東福寺北門の前にあり。三面千手観音を安置す、長一寸八歩、腹内に安置す、■仏立像、三尺、春日の作、千手三面なり。左辺は三宝荒神、右辺は辨財天、頂に二十五面あり。此本尊はいにしへ法性寺諸尊の内なり、かの寺荒廃によつて旧号により再興す、洛陽観音めぐりの第廿二番なり。今浄土宗これを守る〕

前大納言為世人々いざなひて法性寺に花見にまかりて

十首歌よみ侍るける中に

新拾遺

家つどに折つる花もいたづらに帰るさ忘るゝ山桜かな

為

明

法性寺の花を見てよめりける

家集

ちらしける花見る時ぞ思ひ出るみゆきふりにし庭のけしきを

光

俊

源氏物語

（あづま屋の巻）

かはらすきほうさうしのわたりおはしますに夜は明はてぬ。

羅刹谷らせつこく

〔東福寺と泉涌寺せんゆうじの間の谷なり。元亨げんかう釈書延暦寺源心えんしん伝に出たり。又泉涌寺八景の題に羅刹残雨あり、又東福寺旧図にも見へたり〕

薬師堂やくしだう

〔大和大路三橋北爪にあり。本尊薬師仏は丈六坐像、春日の作、いにしへは法性寺金堂の本尊なり。傍の小堂に役行者を安置す〕

遣迎院けんかうあん

〔同街三橋の南、二町許東方にあり。本尊阿弥陀あみだ仏は恵心えしんの作、立像三尺許。京極遣迎院けんかうの兼帯所なり。此地西山上人伝せいざんに見へたり〕

安倍晴明塚あべのせいめいのつか

〔同所本堂の南にあり、此地居住せし所なりと〕

独鈷水 〔同寺にあり、門前町を上之井町、下之井町といふ〕

毘沙門堂びしゃもんだう

〔遣迎院けんかうの南一町許東側にあり、これも法性寺伽藍がらんなりとぞ、今此所の町中これを守る〕

たな
かのやしろ
田中社

〔同街三橋の南三町目西方にあり。祭神稲荷五座の一神なり、世人稲荷叔母の神なりといふ。古は田野の中にあり故に名とす〕

古今著聞集

いづみ
しきぶ
和泉式部

しのびて稲荷へ参けるに、田中明神のほとりにて時雨のしけるに、いかゞすべきとおもひける

に、田かりけるわらはの襖といふものをかりてきて参にけり。下向の程にはれにければ、此襖をかへしとらせてけり。さて次の日式部はしの方を見いだしてゐたりけるに、大きやかなる童の文持てたゞずみければ、あれは何者ぞといへば、此文まいらせ候はんといひてさしをきたるを、ひろげてみれば、

時雨する稲荷の山の紅葉ばはあをかりしより思ひそめてき

と書たりけり。式部あはれと思ひて、此童をよびておくへといひてよびいれけるとなん。